



ポストSAICM(GFC)及び 国際的な化学物質管理の動向

花王株式会社 SAICM推進事務局 長谷恵美子

2023/12/15

ついに国際目標GFC採択

産業界への期待と機会

第2部

1. 化学産業の成長推移と構成
2. 化学物質の課題（有用性と安全性）
3. 産業界への期待と影響
4. GFCを活用して取り組む意義
5. 事例（花王）
6. これまで、いま、そしてこれから

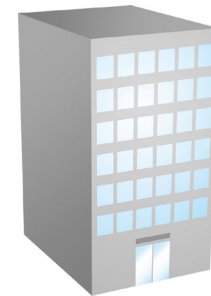
産業界
市民
アカデミア
NGO/NPO
地域住民
顧客



自主管理

レスポンシブルケア活動; 環境安全
SAICM etc

➤ リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーション



法規制運用

化審法、労安法、化管法
REACH、TSCA etc.



産業界：サステナブルで安全な社会のための自主管理と法順守を徹底



Pierre Quiblier, SAICM Coordinator



Anita Breyer, ICCM5 President



Japan



Photo by IISD/ENB | Mike Muzurakis : <https://enb.iisd.org/iccm5-saicm-intersessional-process-resumed-4-sound-management-chemicals-waste-beyond-2020>

第5回国際化学物質管理会議 2023.9.21~9.30

GFC:歴史的な採択



FOCUS RESOURCES EVENTS ABOUT

ICCA Statement on the Outcome of the Fifth Session of the International Conference on Chemicals Management (ICCM5)

Published on September 29, 2023

Bonn, 29 September 2023 – The International Council of Chemical Associations (ICCA) released the following statement following the conclusion of the fifth session of the International Conference on Chemicals Management (ICCM5).

“The International Council of Chemical Associations (ICCA), representing more than 90 percent of global chemical sales has been a strong supporter of the UN-led Strategic Approach to International Chemical Management (SAICM) and a new Global Framework on Chemicals and Bonn Declaration, utilizing the voluntary, multi-stakeholder approach

出典ICCA : <https://icca-chem.org/news/icca-statement-on-the-outcome-of-the-fifth-session-of-the-international-conference-on-chemicals-management-iccm5/>



日化協について | 日化協の取り組み | 発表資料・統計資料 | 刊行物 | サイトマップ

第5回国際化学物質管理会議（ICCM5）の開催について

お知らせ > 第5回国際化学物質管理会議（ICCM5）の開催

2023年10月13日 お知らせ 国際活動

2022年2月末に開催された第5回国連環境総会再開セッション、2023年9月25日（月）から29日（金）にドイツ・ボンで開催された第5回国際化学物質管理会議（ICCM5）は、長期延長ののち、化学物質と廃棄物の健全な管理を行うため



出典日化協 : <https://www.nikkakyo.org/node/1089>

SAICMとGFCのStrong supporter



	2020年	2030年	2050年
世界 総人口	78億人* ¹	85億人* ¹	97億人
化学産業 (売上)	6.5兆円	10兆円	20兆円* ²

*1 国連(2022) https://www.un.org/development/desa/pd/sites/www.un.org.development.desa.pd/files/wpp2022_summary_of_results.pdf

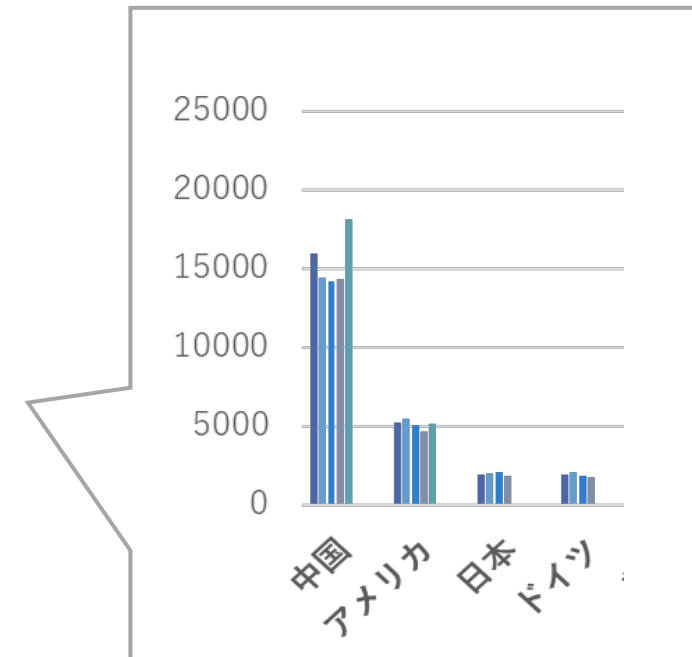
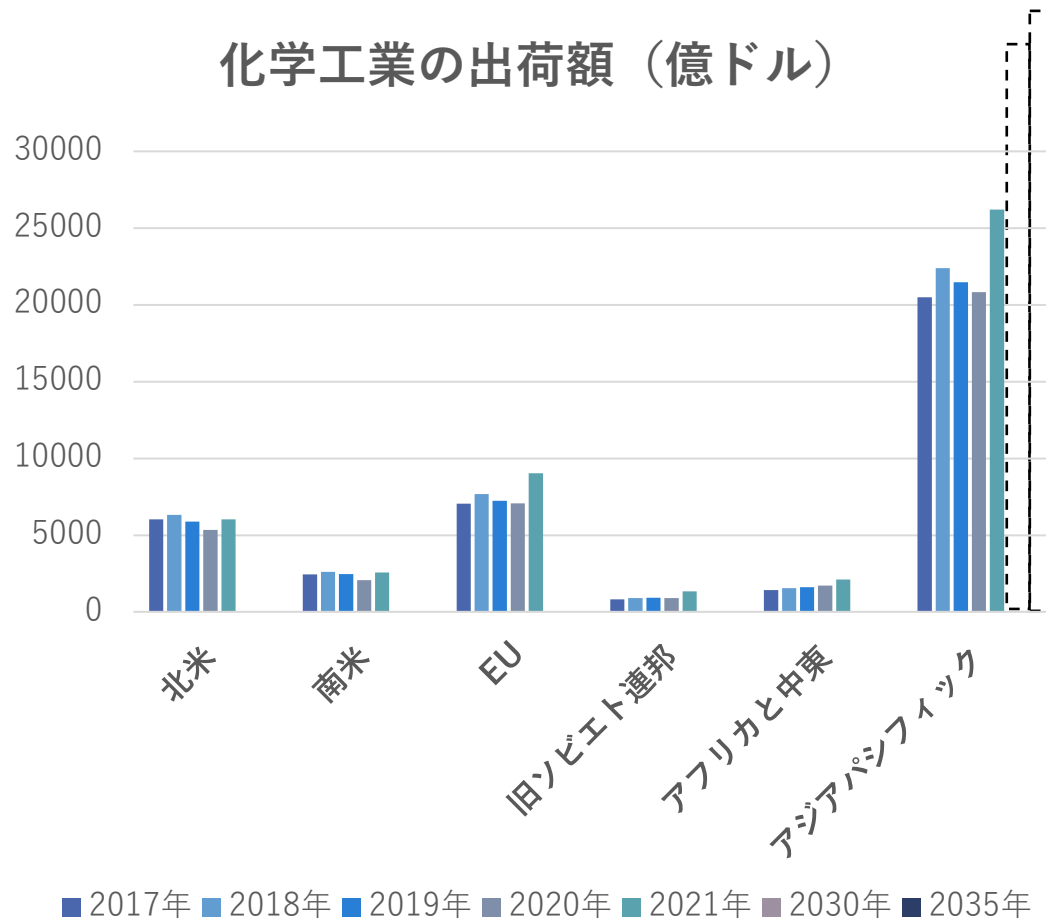
*2 IEA(2018) <https://www.iea.org/reports/world-energy-outlook-2018>

化学産業の、環境、技術、生活等への貢献はよりいっそう高まる



化学工業の成長

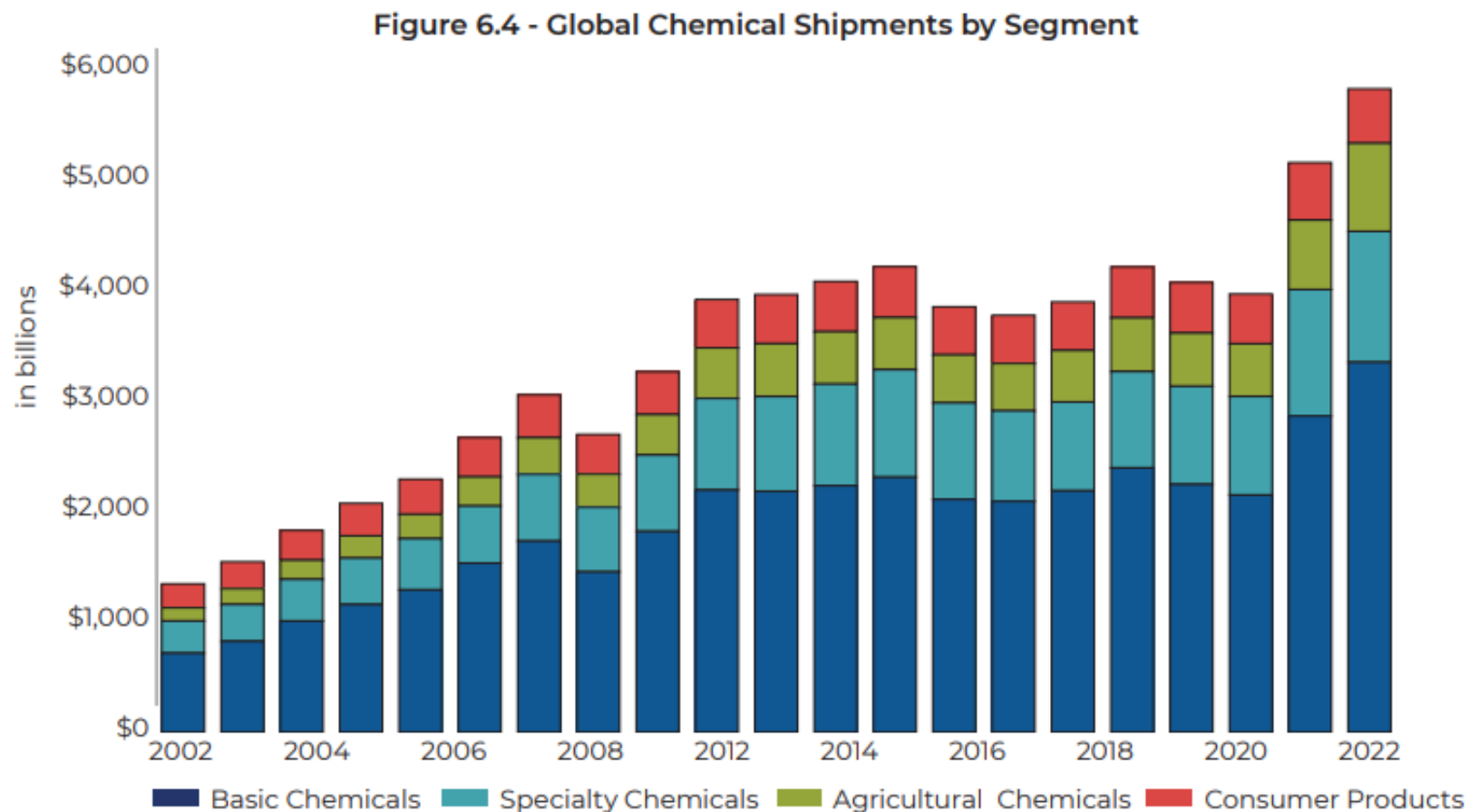
化学工業の出荷額（億ドル）



出典ACC <https://www.americanchemistry.com/chemistry-in-america/data-industry-statistics>

2017年5兆\$、2030年までに倍増、中国が5割、日本は今後・・・

世界の化学工業の出荷額（セグメント別）



Source: American Chemistry Council estimates

出典ACC <https://www.americanchemistry.com/chemistry-in-america/data-industry-statistics>

基礎化学品、特殊化学品、農業化学品、消費者向け化学品いずれも伸長

洗剤



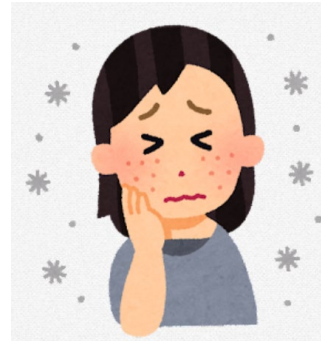
プラスチック



化粧品



食品



Harmful Chemicals



水質汚染



化学事故
違法取引



大気汚染

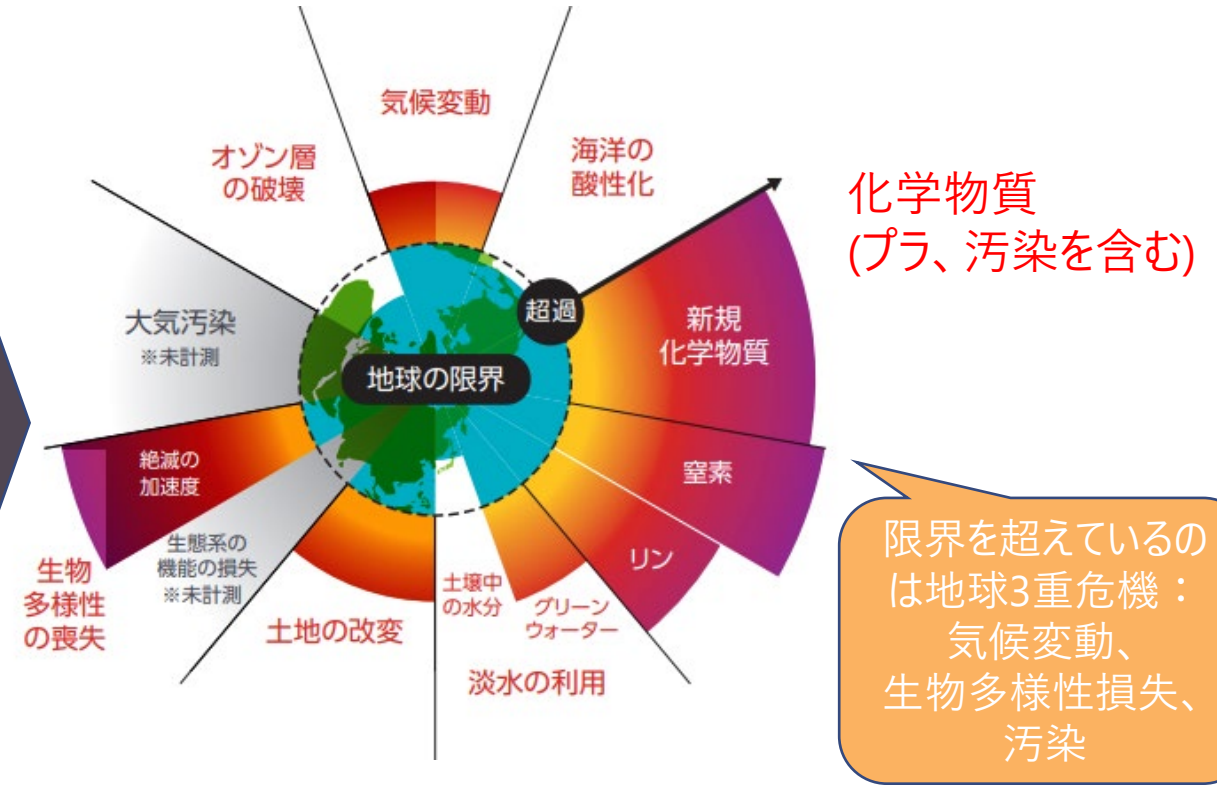
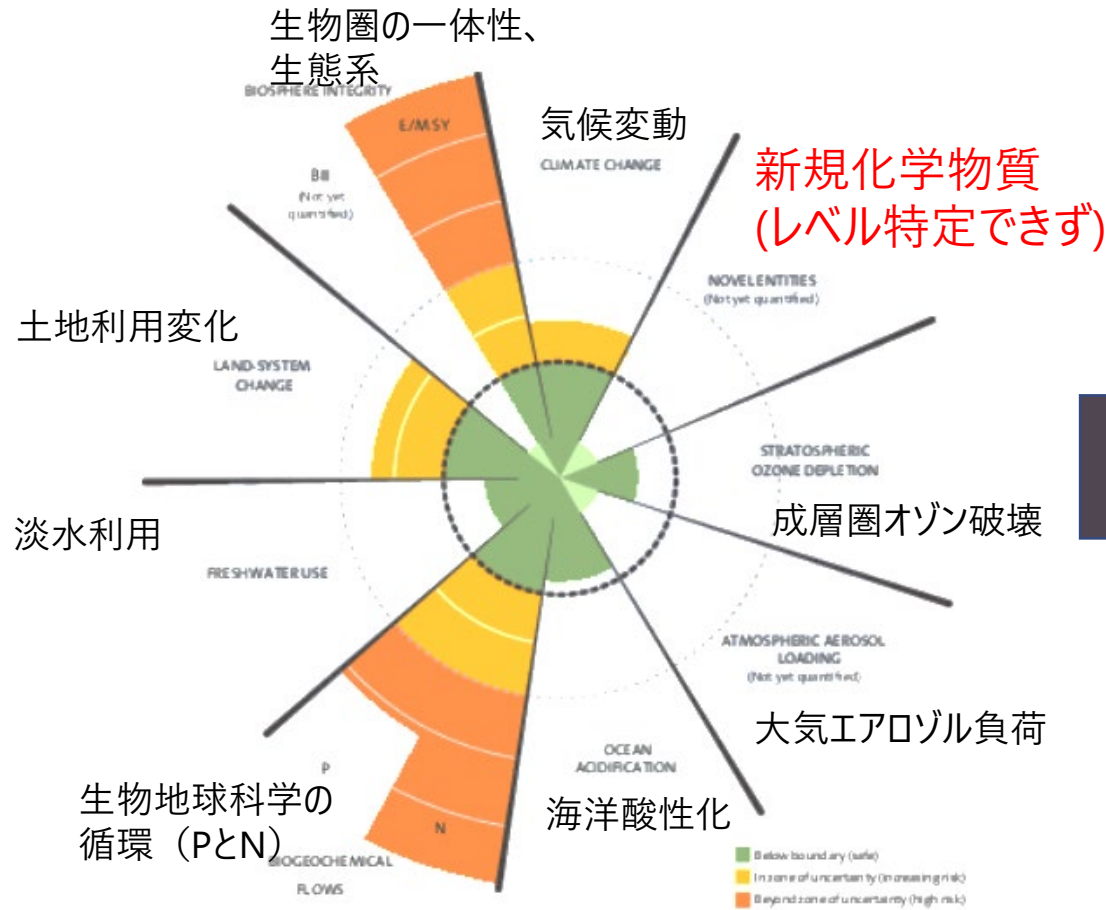
化学物質は生活に必要なだが不適切な管理が悪影響を引き起こす



Planetary Boundary

2009年

2022年

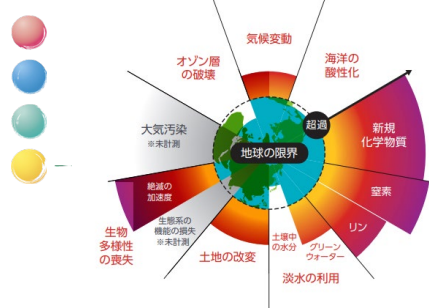


出典：環境白書、STOCKHOLM RESILIENCE CENTRE JANUARY 18, 2022

<https://www.stockholmresilience.org/research/planetary-boundaries.html>

化学物質による負荷はすでに地球の限界レベルを超過

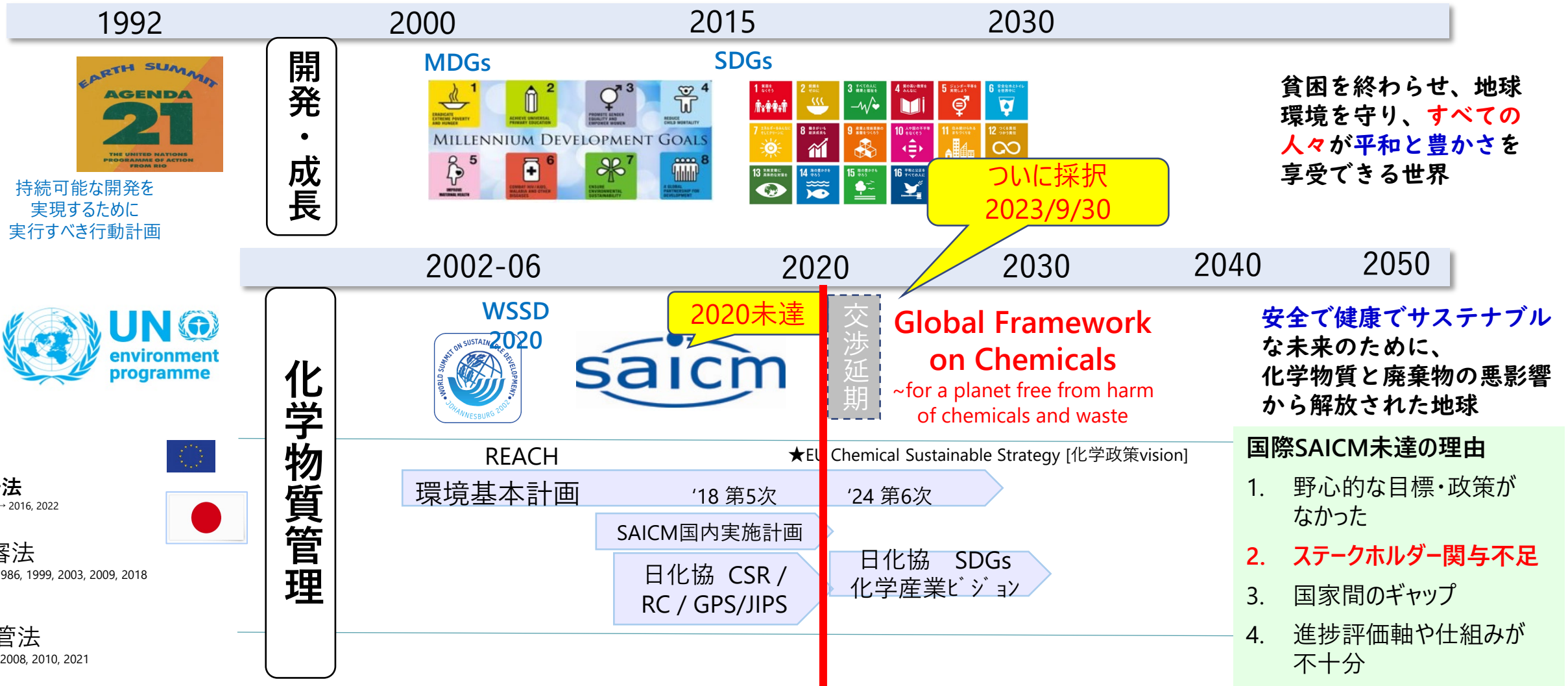
地球の三重の脅威－世界の課題と枠組み



	気候変動抑制	生物多様性(損失)	化学物質・廃棄物管理(汚染)
開始年度	1992 気候変動枠組み条約	1992 生物多様性条約	1992 (Agenda21) 2002 (WSSD) その他環境4条約、プラ条約(P)
枠組・目標年度	1997年～京都議定書 2015年～パリ協定 (2040, 2050年目標)	2010-2020 GBF 2021-2050 post GBF	2006-2020 WSSD-SAICM 2023-Global Framework on Chemicals ～for a planet free from harm of chemicals and waste
□ 準備会合		2022年4月 @China	2022年8-9月、2023年2-3月、2023年9月
□ 採択会合	'97@京都, '15@パリ	2022年12月 @Canada	2023年9月21-25-30日 @Germany
□ ポイント	Carbon Neutral IPCC	Nature Positive IPBES	Planet free from harm of chemicals [予定]NEW Science Policy Panel
参考 日本国内運用 (戦略・法・計画)	'98地球温暖化対策推進法、'18気候変動適応法	国家戦略、生物多様性基本法	SAICM国内実施計画、環境基本計画

国際目標達成に向けて世界が取り組む

化学物質管理に関する国内外の動き



ICCM5後・・・国内実施計画策定/第6次環境基本計画での言及等、国の方向性が見えてくる

2006～2020年【SAICM】

< 国際SAICM未達の理由 >

- 野心的な目標・政策がなかった
- ステークホルダー関与不足
- 国家間のギャップ
- 進捗評価軸や仕組みが不十分

2020年以降【GFC】

【ハイレベル宣言】 ボン宣言
【枠組み文書】

I. はじめに

II. ビジョン、
IV. 原則とアプローチ
V. 戦略的目的、ターゲット

・化学物質と廃棄物による悪影響から解放された地球
・5つの戦略的目的 & 28ターゲット

III. スコープ（対象範囲）

VI. 実施支援メカニズム

・製品・廃棄物を含む化学物質のライフサイクル全体
・マルチステークホルダー、マルチセクター

VIII. キャパビル

VIII. キャパビル推進、キャパビルと技術移転支援のための戦略策定

IX. 資金的検討事項

IX. 民間セクターの関与強化、基金の活用

X. 組織的事項

XI. 進捗モニタリングとレポート

ステークホルダーが定期的にオンラインツールで進捗報告、結果が取りまとめられて公開

XII. 枠組みの更新と改訂メカニズム

【決議集】

目標に紐づく指標
Indicator

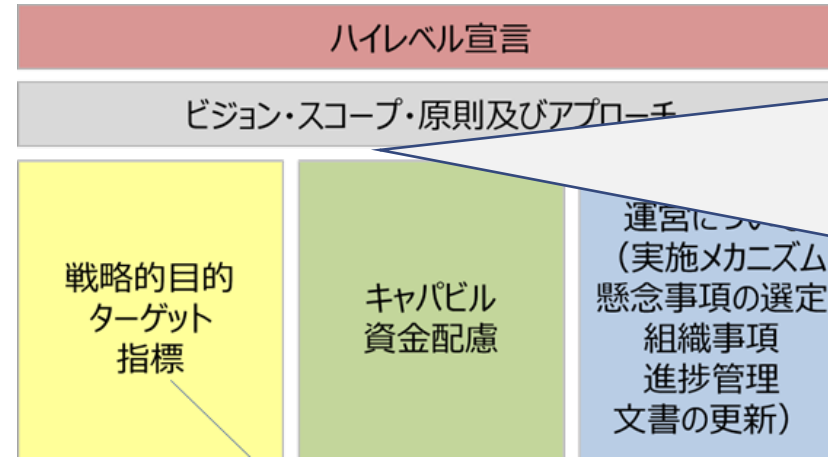
野心的目標に、マルチステークホルダーで取組む & 進捗共有

2006-2020

2020~ GFC

国際SAICM未達の理由

1. 野心的な目標・政策がなかった
2. **ステークホルダー関与不足**
3. 国家間のギャップ
4. 進捗評価軸や仕組みが不十分



- ✓ **製品・廃棄物を含む化学物質のライフサイクル**
- ✓ **マルチステークホルダー・マルチセクター**



2021.7



Stakeholder partnership

メンケル首相 (当時)



**Ambition and collaboration
For people and the planet**

国連事務総長

Photo by IISD :

https://enb.iisd.org/sites/default/files/2021-07/berlin_forum_on_chemicals_and_sustainability_summary_1.pdf

より幅広いセクター(業種)、ステークホルダーの関与が期待される



28のターゲットと主体

Strategic Objectives (戦略的目的)

手段
目的

A: 法的枠組み、制度的メカニズム、能力の整備 化学物質と廃棄物の健全な管理を支援し実現するため	B: 知識・情報・データが生成され、全ての人アクセス可能になる 意思決定と行動ができるように	C: 懸念事項特定、優先順位付けし、対処する	D: より安全な代替と、innovativeで持続可能な解決策を、製品バリューチェーンで実行 健康と環境へのベネフィット最大化、リスク最小化	E: リソースの流動化、連携、協力、キャパビル、企業の意思決定を強化 枠組みの実効性を高めるため
--	--	-------------------------------	--	--

Target (ターゲット) 目標年度：2035年(A7, B1, B3, B4, D2, E1), なし(C1, E3, E4), 2030年(その他)

A1政府	B1 (ALL)	C1 (ALL)	D1企業	E1政府
A2政府間ステークホルダー	B2 (ALL)		D2政府	E2 (ALL)
A3企業	B3ステークホルダー		D3民間セクター(金融含む)	E3 (ALL)
A4ステークホルダー	B4ステークホルダー		D4関係するステークホルダー	E4 (ALL)
A5政府	B5 (ALL)		D5政府	E5政府
A6すべての国	B6すべての政府		D6主要な経済・産業セクター	E6ステークホルダー
A7ステークホルダー	B7ステークホルダー		D7ステークホルダー	

それぞれの主体へのそれぞれの役割、およびステークホルダー間連携への期待



28のターゲット（一部概要）

Strategic Objectives（戦略的目的）

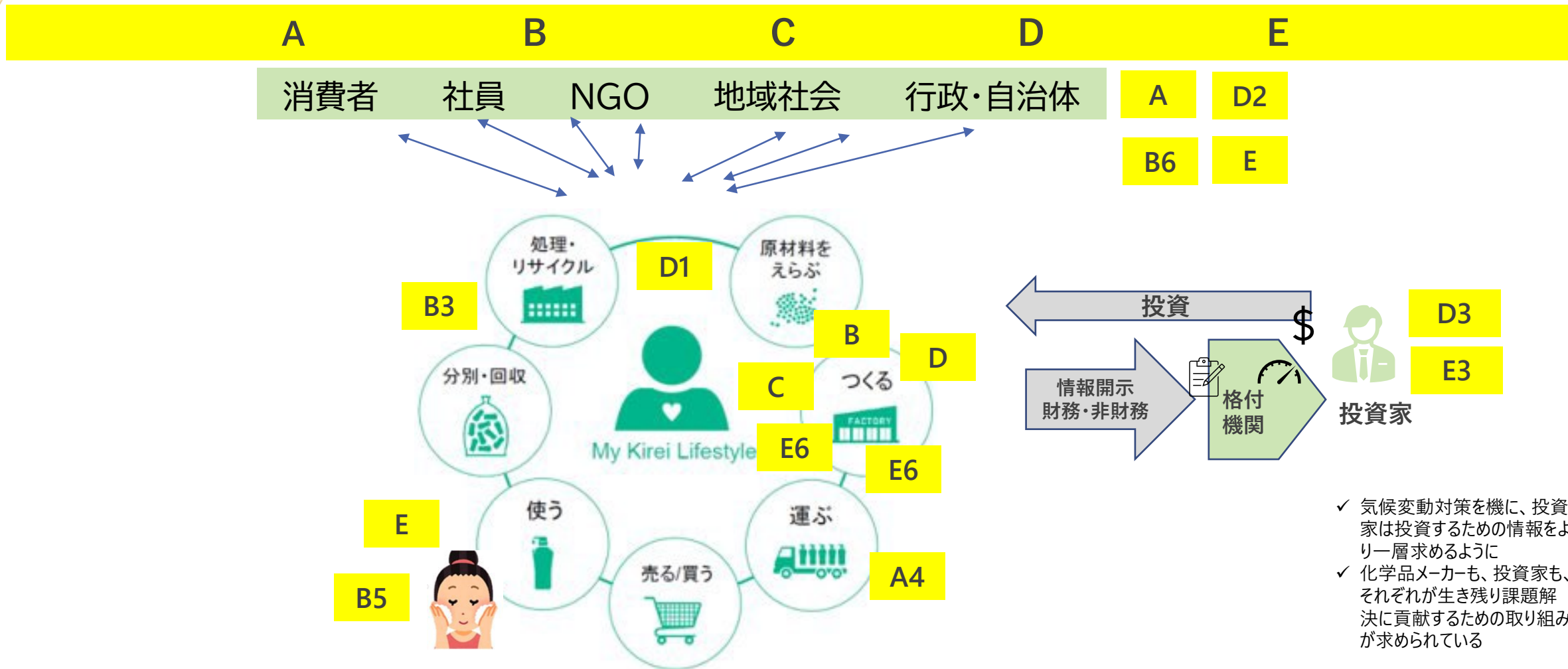
手段
目的

A: 法的枠組み、制度的メカニズム、能力の整備 <small>化学物質と廃棄物の健全な管理を支援し実現するため</small>	B: 知識・情報・データが生成され、全ての人アクセス可能になる <small>意思決定と行動ができる</small>	C: 懸念事項特定、優先順位付けし、対処する	D: より安全な代替と、innovativeで持続可能な解決策を、製品バリューチェーンで実行 <small>健康と環境へのベネフィット最大化、</small>	E: リソースの流動化、連携、協力、キャパビル、企業の意味決定を強化
A1 政府	B1 (ALL)	B2 製品含有化学物質の情報を生成し利用可能にする	D1 企業	D1 サステナブルケミストリーと資源効率性のためのイノベーションに一貫して投資 (その他)
A2 政府間ステークホルダー	B2 (ALL)		D2 政府	E2 (ALL)
A3 企業	B3 ステークホルダー		D3 民間セクター(金融含む)	E3 (ALL)
A4 ステークホルダー	B4 ステークホルダー	B4 ハザード・リスク評価と管理、ガイドライン適用	D4 関係するステークホルダー	E4 (ALL)
A5 政府	B5 (ALL)		D5 政府	D3 戦略と方針をビジネスモデルに統合し報告
A6 すべての国	B6 すべての国	B5 安全性・持続可能性・代替・ベネフィットの啓発	D6 主要な経済・産業	
A7 ステークホルダー	B7 ステークホルダー		D7 ステークホルダー	

目標年度：2035年(A7)

産業界への期待は大きい

ライフサイクルにおける戦略 & ターゲットのイメージ図



- ✓ 気候変動対策を機に、投資家は投資するための情報をより一層求めるように
- ✓ 化学品メーカーも、投資家も、それぞれが生き残り課題解決に貢献するための取り組みが求められている

それぞれの主体がそれぞれの役割を認識し、連携して取り組む



- GFCは目的ではなく手段（国際的な共通のツール）
- 規制対応は最低限の義務、そのほかの部分は自主管理が重要
- 個社の自主管理を推進すればたくさんのメリット
 - 管理コスト減
 - 社会環境課題の解決に貢献、事業創出にもつながる
 - GFC国際目標実現にも貢献
 - 社外からの評価向上（報告開示による評価機関からの評価）
 - 企業価値向上 = 事業成長の機会

化学物質管理の推進が企業価値向上、社会環境課題解決に



今後の進め方(案)

1. ビジョン・・・2030年、2050年に
ありたい姿

2. アプローチ

3. GFCとのギャップ分析

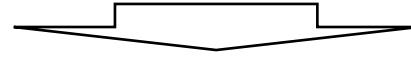
✓ 課題の明確化

4. 戦略的に取り組む

✓ 優先順位付け

✓ 個社らしさを加えて取り組む

G F C 2 8 のターゲット



◎できている

○更なる改善

△要検討

○更なる協力【11】・・・主語が政府や国際機関



- 優先的に取り組むターゲット
- 新たに取り組むターゲット

➡ 進捗把握：社内の関連取り組み進捗を把握、達成度を把握



- ✓ 継続的に取り組む
- ✓ 定量解析（現在の達成度、連携先候補等）
- ✓ 同上

個社の強みや特徴を生かした取り組みへ



ギャップ解析 (イメージ)

Strategic Objectives (戦略的目的)

手段

目的

A: 法的枠組み、制度的メカニズム、能力の整備 化学物質と廃棄物の健全な管理を支援し実現するため	B: 知識・情報・データが生成され、全ての人アクセス可能になる 意思決定と行動ができるように	C: 懸念事項特定、優先順位付けし、対処する	D: より安全な代替と、innovativeで持続可能な解決策を、製品バリューチェーンで実行 健康と環境へのベネフィット最大化、リスク最小化	E: リソースの流動化、連携、協力、キャパビル、企業の意思決定を強化 枠組みの実効性を高めるため
--	--	-------------------------------	--	--

Target (ターゲット) 目標年度：2035年(A7, B1, B3, B4, D2, E1), なし(C1, E3, E4), 2030年(その他)

A1政府	B1 (ALL) ◎	C1 (ALL)	D1企業 ○	E1政府
A2政府間ステークホルダー	B2 (ALL) ○		D2政府	E2 (ALL) ○
A3企業 △	B3ステークホルダー ○		D3民間セクター(金融含む) △	E3 (ALL) △
A4ステークホルダー ○	B4ステークホルダー △		D4関係するステークホルダー ○	E4 (ALL) △
A5政府	B5 (ALL) ○		D5政府	E5政府
A6すべての国	B6すべての政府		D6主要な経済・産業セクター △	E6ステークホルダー： △
A7ステークホルダー △	B7ステークホルダー △		D7ステークホルダー △	

強化

継続

継続

強化

連携

1. ビジョンの設定・・・2030年、2050年にありたい姿
2. アプローチの設定・・・どのように実現するか
3. GFCとのギャップ分析
 - 課題の明確化（できていること、できていないこと）
 - 優先順位付け
 - 何が足りないか、どこと連携すればできるか
 - 新たに取り組むこと・・・個社らしさを出す



国際的な合意

気候変動 パリ協定



Kao



2040年カーボンゼロ
2050年カーボンネガティブ
を目指す 1.5°C目標（自社拠点CO2）

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2021/20210519-001/>

生物多様性損失 生物多様性枠組み



Kao



Nature positiveを実現し、
自然との共生に不可欠な
企業になる:人・自然と化学の共生

<https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/biodiversity-basic-policy.pdf>

化学物質と汚染 Global Framework on Chemicals その他環境4条約等



Kao



化学物質のリスクを適切に
管理し全ての人々が恩恵
を享受できる安全・安心な
社会の実現に貢献する

<https://www.kao.com/jp/innovation/safety-quality/saicm/saicm-policy/>

UNEA5:気候変動・生物多様性損失・化学物質汚染に包括的に取り組めば双方に利益を生む

2009年6月
環境宣言

2013年
サステナビリティ
ステートメント

2019年
Kirei Lifestyle Plan

2020年中期目標

CO₂： 消費者向け製品 35%削減(国内)
(全ライフサイクルベース、売上高原単位、2005年基準)

水： 製品使用時の水 30%削減(国内)
(売上高原単位、2005年基準)

化学物質：SAICMに沿って、積極的に
化学物質の管理に努めます

生物多様性：原材料の調達などの面で、
その保全に努めます



化学物質管理

花王はSAICMに沿って
積極的に化学物質管理
に努めます



責任ある 化学物質 管理

世界の人々が化学物質の恩恵を享受し、
リスクが適切に管理される
安全・安心な社会の構築に貢献したい。
この実現に向けて花王は、ESG活動を通じて責任
ある化学物質管理を
先導していきます。

花王の「よきモノづくり」

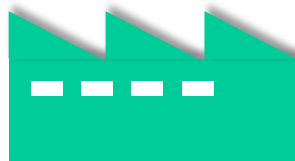
原材料

油脂原料 など



製造

合成・配合・組立



製品



ケミカル製品



洗剤 など



化粧品 など



紙おむつ 飲料 など

- **幅広い事業分野**：ケミカル製品からコンシューマー製品まで多様な製品
(28,000種以上)
- ケミカル製品をコンシューマー製品の原料としても利用
- **使用原料は35,000種類をこえ**、反応、配合、組立と多様な製品化プロセス
- 化学品だけでなく、医薬部外品、化粧品、食品など製品カテゴリーに応じた規制対応

「化学物質管理」は、花王のモノづくりの根幹を担う

化学物質管理に関する国内外の動き

1992 2000 2015 2030



持続可能な開発を
実現するために
実行すべき行動計画

開発
・
成長

MDGs

SDGs



貧困を終わらせ、地球
環境を守り、**すべての
人々が平和と豊かさを
享受できる世界**

2002-06

2020

2030

2040

2050



労安法
1972 → 2016, 2022

化審法
1973, 1986, 1999, 2003, 2009, 2018

化管法
1999, 2008, 2010, 2021



1890

化学物質管理

WSSD
2002



REACH

環境基本計画

2020未達



交渉延期

**Global Framework
on Chemicals**
~for a planet free from harm
of chemicals and waste

安全で健康でサステナ
ブルな未来のために、
化学物質と廃棄物によ
る悪影響から解放され
た地球

★EU Chemical Sustainable Strategy [化学政策vision]

2020達成

化学物質管理

Kao SAICM
推進活動

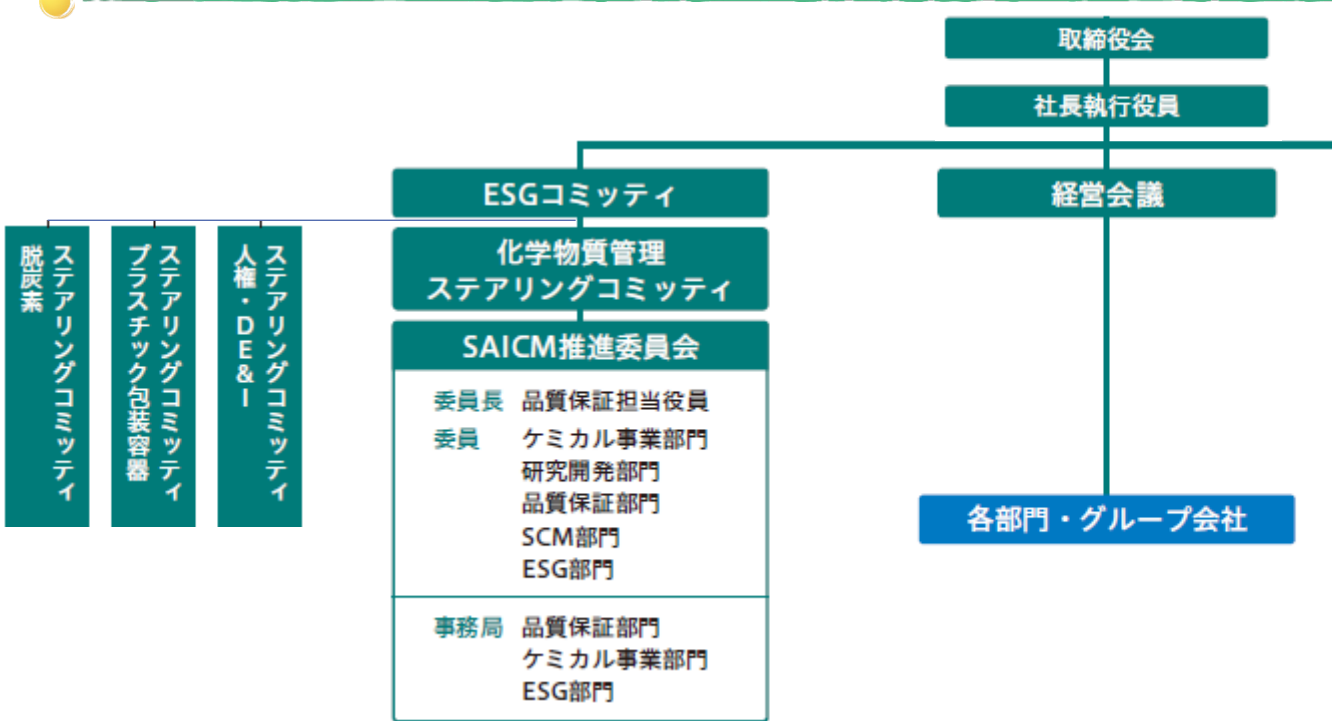
**Kao SAICM
責任ある化学
物質管理**

国際目標に先駆けて
3年リード(2021.1~)

**世界の人々が、リスク
が適切に管理され化学
物質の恩恵を享受する
安全で安心な社会**

ついに採択
2023/9/30

花王 (長谷)

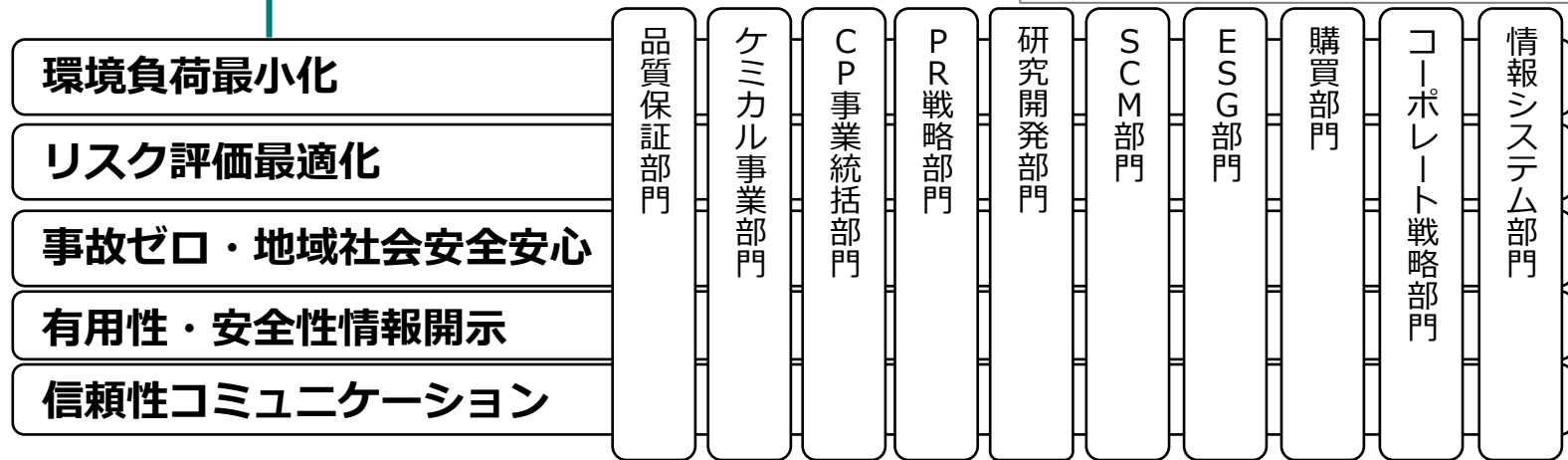


Vision - Objective

私たちは、**世界の人々**が化学物質の恩恵を享受し、リスクが適切に管理される**安全・安心な社会**の構築に貢献したいと考えます。
この社会の実現に向けて、花王は**ESG活動**を通じて「**責任ある化学物質管理**」を先導していきます。

5-part approach – Key Results

- 製品ライフサイクル全体で**環境負荷を最小化**
- 化学物質による**事故ゼロ**の実現と、地域社会の安全確保・安心の醸成
- 化学物質の**リスク評価手法の最適化**と、管理効率の向上
- 化学物質の**有用性と安全性に関する情報**をわかりやすく**開示**
- 社会から信頼される企業になるための**コミュニケーション**



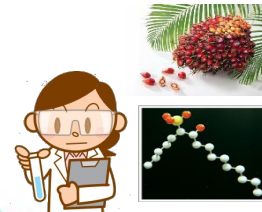
花王 サステナビリティレポート：
<https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sustainability2023-32.pdf>

花王の責任ある化学物質管理-5アプローチ

社会から信頼されるための
コミュニケーション



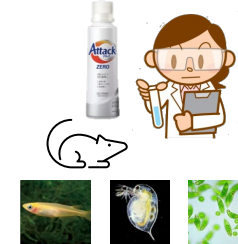
製品ライフサイクル
全体で
環境負荷を最小化



有用性・安全性情報を
わかりやすく開示



リスク評価手法の
最適化・管理効率
向上



化学物質事故ゼロ・
地域社会の
安心醸成



花王 責任ある化学物質管理基本方針：<https://www.kao.com/jp/innovation/safety-quality/saicm/saicm-policy/>

人・地球・社会にとっての安全・安心のための化学物質管理



GFC: 2 8 のターゲットと主体

Strategic Objectives (戦略的目的)

手段
目的

A: 法的枠組み、制度的メカニズム、能力の整備 化学物質と廃棄物の健全な管理を支援し実現するため	B: 知識・情報・データが生成され、全ての人アクセス可能になる 意思決定と行動ができるように	C: 懸念事項特定、優先順位付けし、対処する	D: より安全な代替と、innovativeで持続可能な解決策を、製品バリューチェーンで実行 健康と環境へのベネフィット最大化、リスク最小化	E: リソースの流動化、連携、協力、キャパビル、企業意思決定を強化 枠組みの実効性を高めるため
--	--	-------------------------------	--	---

Target (ターゲット) 目標年度：2035年(A7, B1, B3, B4, D2, E1), なし(C1, E3, E4), 2030年(その他)

A1政府	B1 (ALL)	C1 (ALL)	D1企業	E1政府
A2政府間ステークホルダー	B2 (ALL)		D2政府	E2 (ALL)
A3企業	B3ステークホルダー		D3民間セクター(金融含む)	E3 (ALL)
A4ステークホルダー	B4ステークホルダー		D4関係するステークホルダー	E4 (ALL)
A5政府	B5 (ALL)		D5政府	E5政府
A6すべての国	B6すべての政府		D6主要な経済・産業セクター	E6ステークホルダー
A7ステークホルダー	B7ステークホルダー		D7ステークホルダー	

それぞれの主体へのそれぞれの役割、およびステークホルダー間連携への期待

紐づけ・解析（イメージ概要）

化学物質事故ゼロ・
地域社会の
安心醸成

D7：2030年までに、ステークホルダーは、すべての関連セクターおよびサプライチェーン全体において、環境保護対策と同様に、効果的な労働安全衛生慣行を確保するための対策を実施し、努力する。

リスク評価手法の
最適化・管理効率
向上

B4：2035年までに、ステークホルダーは、ハザードとリスク評価のための、化学物質と廃棄物管理のための適切なガイドライン、ベストプラクティス、標準化されたツールを適用する。

有用性・安全性情報を
わかりやすく開示

B5：2030年までに、化学物質の安全性、持続可能性、より安全な代替品、および化学物質と廃棄物のリスク削減のメリットに関する教育、訓練、啓発プログラムが、ジェンダーに対応したアプローチを考慮しながら、開発され、実施される。

社会から信頼される
ための
コミュニケーション

D1：2030年までに、企業が、化学物質のライフサイクル全体を通じて、サステナブルケミストリーおよび資源効率の向上に向けたイノベーションに一貫して投資し、それを達成する。

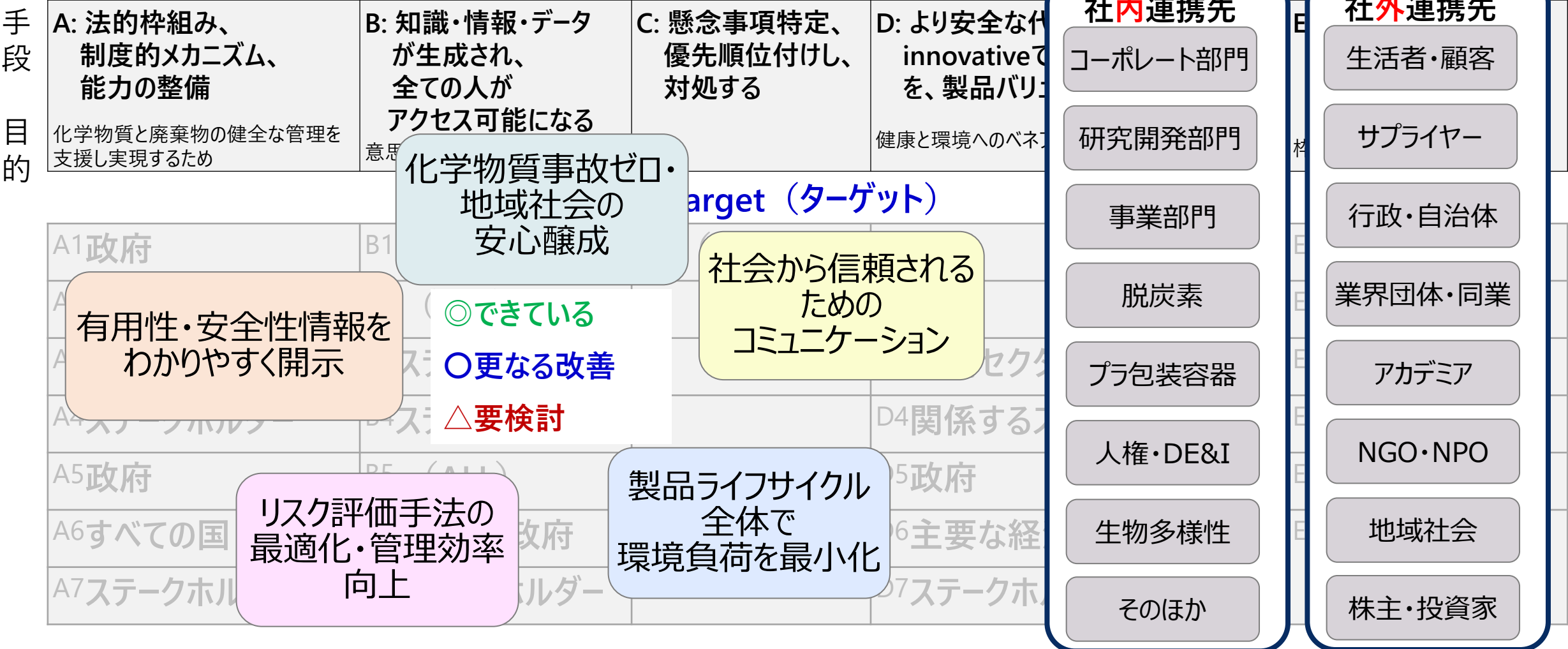
製品ライフサイクル
全体で
環境負荷を最小化

D4：2030年までに、関係するステークホルダーが、研究・イノベーションプログラムにおいて、消費者向け製品を含む製品や混合物中の有害物質に対して、持続可能な解決策と、より安全な代替物質を優先的に採用する。



ギャップ解析（イメージ概要）

Strategic Objectives（戦略的目的）



現状把握と優先順位付けを行い、社内外連携を通じて個社らしい取組を

1. 化学物質は生活に必要
2. 気候変動、生物多様性損失、汚染は地球三大危機
3. 社会環境課題解決のために化学物質管理への大きな期待
4. 規制と自主管理
5. GFCを国際的な共通ツールとした、各主体に期待される役割実行
6. 課題解決に化学物質管理が貢献することをわかりやすく社会と対話
(評価機関、金融セクター、一般消費者、BtoB、規制当局ほか)
7. マルチステークホルダー間の共有が共感を生み、連携、そして課題解決、
価値向上へとつながる

KaO

きれいを ところに 未来に